

30歳から始める

今月の課題

定常円旋回 (パイロンなし)

目指すは三十路の星!

ドリフト

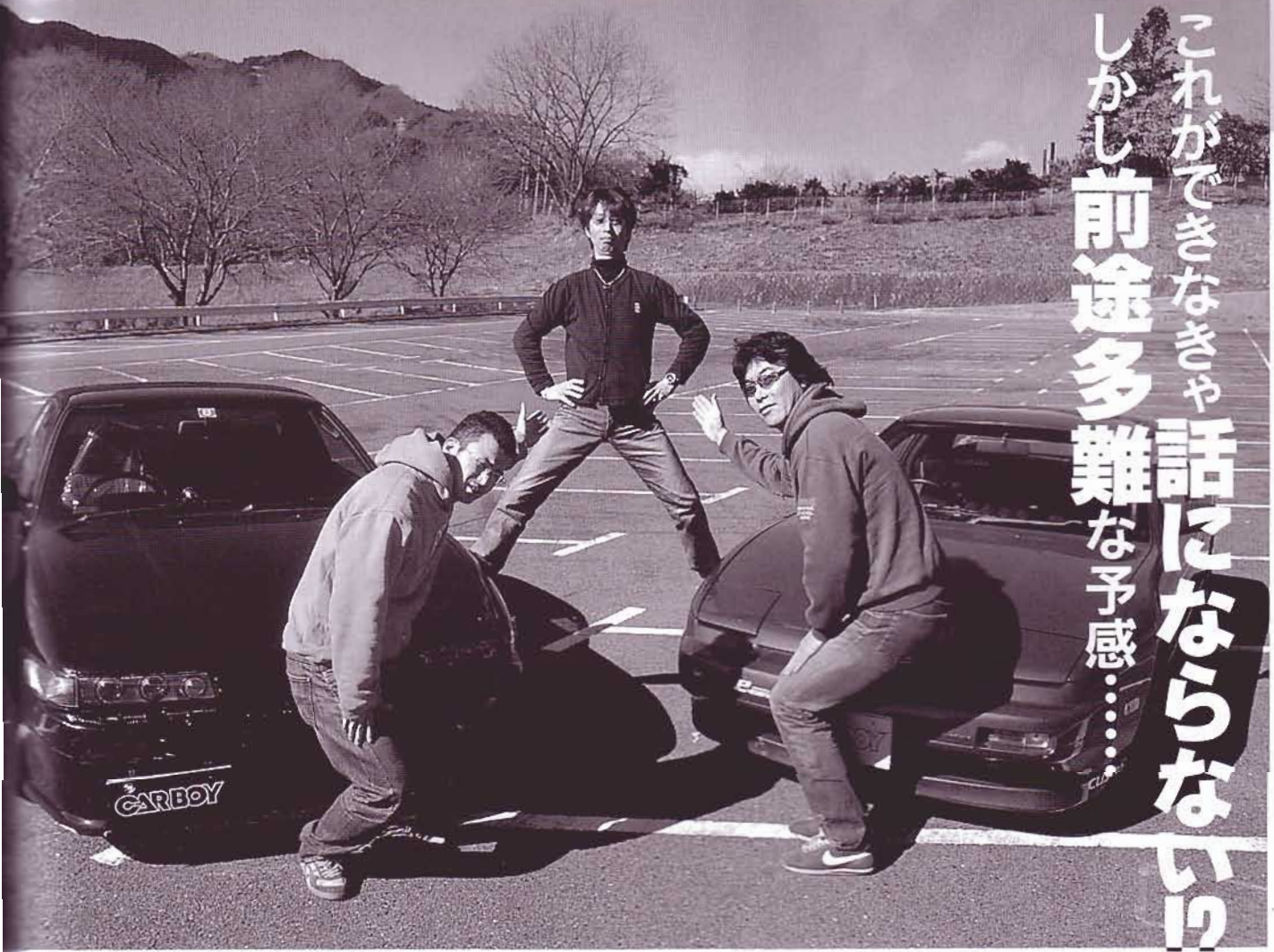
修練塾



photo—岡拓 report—佐藤圭
撮影協力—相模湖ピクニックランド

さあきて、マサと竹ちゃんという2人の三十路ドリフト予備軍を鍛えていくこのページ。前号でもお伝えしたように、基本中の基本からやっつけていくのが最大の特徴。今回のテーマは、パイロンなしの広いコースで、自由にアクセルターンさせること。これができるないと話が先に進まないといってもいいほどの、基本かつ重要なレッスンだ。

練習方法としては、3周くらいを目安にまず回ってみよう。注意点としては、なるべく描く円がズレないようにすることだ。



これができるなきや話にならない!!
しかし前途多難な予感……!!

マサシルビア

CBワンビア



ドリフトしやすいクルマって!?

まず竹ちゃん号はおなじみのCBワンビア。この企画のためにCBから譲り受けたのだ。そこそこ走れる仕様にはなっているけど、LSDの効きが少し甘いのが気になる点。それ以外はほぼOKでしょう。マサが手に入れたのもS13なんだけど、こちらは走る前に基本的なところを修理する必要があるぞ。最低限のパーツは付いているんだけど、タコメーターが壊れてるのはヤバいぞ。先月も説明したけど、最初はLSDと車高調さえあれば問題なし。そういった意味では2台とも合格!

出席番号 1 坂東マサの場合

手足の動きをうまく連動させるのが課題



30点

これは困った。なんとというか、アクセル操作が全開が全開かのスイッチ系なんだよ。今回の練習場所は少し傾斜しているの
で下りでは上りよりもアクセルを少し抜かなければならないの
だが、これができない。常にアクセル全開で、レブリミッター

が当たっても気にせず踏んでし……。それに、ひとつのことに集中すると、まわりが見えなくなってしまうのも問題。だから、マサは1周半くらいしか続けることができなかった。マサの場合は「同じ場所でキレイに回る」って練習がもっとも必要だ。パイロンを置くなんて、まだまだ先だな！ 手足が自然に動くようになるまで体に覚えさせるしかない。本人はいつも自信たっぷりなんだけど、この課題がクリアできるまでは補習決定！



▲「カウンターを戻すタイミングと量がイマイチわかりにくいね。アクセルも一緒。もっと高度な課題のほうがオレには向いてるんじゃない?」



▲チンゴ先生の模範走行を見てから、生徒が1人ずつ自分のクルマでチャレンジ。その後は生徒を助手席に乗せてアドバイスする。解説に聞き入る竹ちゃんとうマサの表情は真剣そのもの!

アクセルターンのきつかけは、最初にステアリングを回りたい方向にある程度切っておく。そしてクラッチを踏んだまま、アクセルを5000回転くらいまで吹かす。その状態から、クラッチを思い切り離してみよう。するとクルマがステアリングを切った方向にイッキに回り出す。第1段階としてはそれでOKだ。

次はカウンターを当てて、リヤの動きをコントロールする練習だ。カウンターが遅いとスピンしてしまうし、行きたい方向にも行けないのでドリフトが続かない。カウンターの当てるタイミングは、ドリフトでも重要なんだ。この練習をしていると、ステアリングがどっちを向いているのかわからなくなる人が多い。でもこれを解決するには、なにしろたくさん走り込んで体で覚えるしかない。これがポイントの1。

出席番号 2 竹ちゃんの場合

カウンターを当てるタイミングがGOOD!



80点

予想以上にのみ込みが早い竹ちゃん。最初はステアリング操作がうまくできていなかったのがアドバイスしてあげたら、完璧ではないもののなんとか円を描けるようになった。3周以上続けることもできたし、そのうえ逆回りまでできるようになった。これはたいしたもんだ！ 普通は、右回りはできるけど左回りはできない、という人が多いんだけどね。竹ちゃんはアクセルのコントロールもなかなかうまいぞ。そんなワケで竹ちゃんにはひと足先に次のテーマ「パイロンを中心とした円旋回」をやらせてみたんだけど、これも完璧ではないにしろできてしまったから前途有望。来月はもっと同じ場所をキレイに連続で回れるように特訓だな!



コツをつかんだ!

▲「カウンターが遅れるとステアリングを切る量が多くなって、どんどんタイミングのズレが大きくなるみたい。でも、コツはわかってきたよ!」

村尾チンゴのワンポイントアドバイス

ステアリングはあまり切らない!

▼初心者と上級者で大きく違うのが「ステアリングを切る量」。チンゴ先生(左)は最小限の切れ角で、無駄な動作がない。でも、生徒(右)はほぼフルカウンターとなっているでしょ? ステアリングを切りすぎると戻すときの動作も忙しくなり、操作が難しくなってしまう。



アクセルを踏みすぎない

▶アクセルを踏まなければドリフトはできないけど、踏みすぎるとスピンしてしまう。アクセルはオンオフのスイッチ的な操作もやめて、リヤのスライドを細かくコントロールするべし。その操作をステアリングとうまく連動できれば、この課題はクリアしたも同然だぞ!



左回りはみんな苦手

▶日本車は右ハンドル、つまり右側はよく見えるけど左側は距離などの感覚がつかみにくい。だから普通は右回りより左回りのほうが苦手という人が多い。パイロンを中心に戻るときは、その傾向がもっと強くなるぞ。



頭じゃ理解してても...

▲最初のうちは「ステアリングはどれくらい切れているの?」とか「今どっちを向いているの?」なんてことも頭が真っ白でわからないはず。でもこれはだれでも一度は通る道なので心配はいらない。対処法はただひとつ「たくさん練習して慣れる!」しかない。



次号予告



今回のテーマ「パイロンなしの円旋回」は、ドリフトの初歩だけあってさほど難易度は高くないはず。次回はそこにパイロンという目標物を追加してみるぞ。「パイロンを中心に」という前提ができたとき、果たしてマサと竹ちゃんはスムーズに対応できるかな? 次号で完璧な円旋回を身につけよう!